

# 令和元年度専門学校ユマニテク医療福祉大学校

## 学校関係者評価報告書

学校法人大橋学園専門学校ユマニテク医療福祉大学校学校関係者評価委員会は、令和2年3月に「令和元年度学校自己評価表」に基づいて学校関係者評価を実施しましたので、以下の通り報告いたします。

令和2年4月1日作成  
学校法人大橋学園  
専門学校ユマニテク医療福祉大学校  
学校関係者評価委員会

### 1. 学校関係者評価委員（出席者）

委員 田中 一彦（一般社団法人三重県作業療法士会 会長）  
委員 松本 周二（介護老人保健施設 みえ川村老健 主任）  
委員 伊藤 正敏（ユマニテク医療福祉大学校 同窓会しおかぜ 監事）  
委員 藤田 泰樹（大橋学園高等学校 校長）  
事務局 和田 欣子（専門学校ユマニテク医療福祉大学校 学校長）  
橋本 昌弘（ユマニテク医療福祉大学校 作業療法学科長）  
書記 山崎 治行（ユマニテク医療福祉大学校 作業療法学副科長）

### 2. 令和元年度自己評価（令和元年度の学校運営等についての評価）

項目	評価・課題
(1) 教育理念・目標	<p>評価：ほぼ適切（平均 3.0 点、15 点／20 点）</p> <p>課題：ディプロマポリシー、カリキュラムポリシーを策定したが、カリキュラムマップについては、作成していない。</p> <p>改善策：カリキュラムマップを作成し、学生にカリキュラムの内容について、周知していく。</p>
(2) 学校運営	<p>評価：ほぼ適切（平均 3.3 点、26 点／32 点）</p> <p>課題：人事給与面において、基盤整備が進行中である。</p> <p>改善策：経営コンサルタント会社の導入し、さらに基盤整備を行っていく。</p>
(3) 教育活動	<p>評価：ほぼ適切（平均 3.3 点、46 点／56 点）</p> <p>課題：教員の指導力及び専門性の向上のため、研修会に参加することはできているが、研究や開発には十分に組み合っていない。</p> <p>改善策：職員が能力開発や知識・技能の獲得のため、研修会に参加し、研究を行えるように環境を整える。</p>
(4) 学習成果	<p>評価：ほぼ適切（平均 3.2 点 16 点／20 点）</p> <p>課題：高学年になっても知識・技術が不十分な学生が増えてきている。</p> <p>改善策：学生の負担が少なく、効果的に学習ができるよう、講義の時期や内容、教材について工夫する。</p>
(5) 学生支援	<p>評価：ほぼ適切（平均 3.0 点、30 点／40 点）</p> <p>課題：課外活動なども含めた環境整備が不十分である。</p> <p>改善策：課外活動や奨学金制度など学生の支援について検討していく。また、スクールカウンセラーに気軽に相談にいけるような環境づくりを行う。</p>
(6) 教育環境	<p>評価：ほぼ適切（平均 3.0 点、9 点／12 点）</p> <p>課題：備品の修理、買い替えについては不十分な部分がある。</p> <p>改善策：備品について、計画的に修理、買い替えを行っていく。</p>
(7) 学生の受け入れ募集	<p>評価：ほぼ適切（平均 3.0 点、9 点／12 点）</p> <p>課題：学生募集活動は活発に行っているものの、十分な成果として表れていない。</p> <p>改善策：募集活動において、ホームページや SNS を使用した取り組みを行っていく。ホームページを見やすくわかりやすいものにする。</p>
(8) 財務	<p>評価：ほぼ適切～適切（平均 3.5 点、14 点／16 点）</p> <p>課題：入学者数が少ないため、帰属収入が落ちている。</p> <p>改善策：経済的な基盤を安定させるため、入学者募集に力を入れていく。</p>

<p>(9) 法令等の遵守</p>	<p>評価：ほぼ適切（平均 3.3 点、13 点／16 点）  課題：指定規則改定における備品の整備が必要である。  改善策：計画的に備品を購入していく。</p>
<p>(10) 社会貢献・ 地域貢献</p>	<p>評価：適切（平均 3.7 点、11 点／12 点）  課題：学校の教育資源や施設の活用について、工夫の余地がある。  改善策：教員や学生が地域に貢献できるような活動をさらに増やしていく。</p>

### 3. 令和元年度 学校関係者評価（令和元年度の自己評価についての評価）

項目	評価・課題
<p>(1) 教育理念・目標 「理念・目的・育成人材像は定められているか」</p>	<p>適切である。</p>
<p>(2) 学校運営 「目的等に沿った運営方針が策定されているか」</p>	<p>適切である。</p>
<p>(3) 教育活動 「教育理念等に沿って教育課程の編成・実施方針等が策定されているか」</p>	<p>適切である。</p>
<p>(4) 学習成果 「卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか」</p>	<p>適切である。</p>
<p>(5) 学生支援 「学生相談に関する支援体制は整備されているのか」</p>	<p>適切である。</p>
<p>(6) 教育環境 「施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか」</p>	<p>適切である。</p>
<p>(7) 学生の受け入れ募集 「学生募集活動は適正に行われているか」</p>	<p>適切である。</p>

<p><b>(8) 財務</b> 「財務について会計監査が適正に行われているか」</p>	<p>適切である。</p>
<p><b>(9) 法令等の遵守</b> 「法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか」</p>	<p>適切である。</p>
<p><b>(10) 社会貢献・地域貢献</b> 「学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか」</p>	<p>適切である。</p>

#### 4. 学校関係者評価 総括と課題について

項目	評価・意見
<p>自己評価結果についての全体的な評価・意見等</p>	<p>全体的に、自己評価では、ほぼ適切～適切なレベルである。今後は、自己評価の中で抽出された課題について、少しでも解決し、質の高い学校運営を目指していく。</p> <p>また、業界のニーズ等については、企業等委員とも意見交換し、10年先、20年先を見据えた人材育成を行っていく。</p>